

「北海道『北極海航路』調査研究会」の開催

北海道総合政策部交通政策局物流港湾室 主査 山下 香



研究会の様子

平成 27 年 2 月 4 日（水）、道は行政機関・研究機関・港湾関係者で構成する「北海道『北極海航路』調査研究会」を札幌市内で開催しました。



国土交通省
藤原専門官



北日本港湾コンサルタント(株)
大塚部長

研究会の前半では、2014 年シーズンの利用実績など北極海航路の最新情報について講演をいただきました。

まず、国土交通省で北極海航路に関する施策を担当する総合政策局海洋政策課の藤原専門官から、北極海航路に関する動向について説明がありました。主な内容として、北極海航路の 2 国間の国際貨物輸送実績について 2014 年シーズンは 1 隻であり、2013 年シーズンの 18 隻と比較して急減したこと。また、その減少要因として、海外の有識者の意見では、中国の鉄鉱石需要の低下、船舶燃料価格や原油価格の下落、ロシアの政治的要因が影響したとの見方が多いことについて触れられました。

続いて、これまで数多くの北極海航路関連の業務を担当され、様々な成果を取りまとめられている北日本港湾コンサルタント(株)の大塚企画部長から、2014 年シーズンの国際貨物輸送が減少した要因について、海上輸送価格市場や鉄鉱石市場の推移など具体的なデー

タを交え詳細な追加説明がありました。また、北海道の関わりにおける今後の展望として、コンテナはまだかなり先の話であり、様々なバルク貨物の可能性を探る必要があるとの考えが示されました。



独寒地土木研究所
池田所長



稚内市
鈴木参事兼港湾課長



紋別市
佐藤参事

後半の北極海航路に関する話題提供では、昨年 6 月に外務省が主催した「北極圏開発調査団」に参加した(独)土木研究所 寒地土木研究所の池田所長から報告があり、フィンランドが北極圏の開発を国家戦略の柱として位置付け、北極海航路を含む北極圏の開発に積極的に取り組んでいる状況などの紹介がありました。

さらに、前半の講演とは視点を変えて、道内の港湾や地域の視点から、北極海航路への期待についてお二人の港湾管理者から話題提供をいただきました。

稚内市建設産業部の鈴木参事兼港湾課長は、北極海航路からアジアに向かう船舶の多くが宗谷海峡を通過している点に注目し、海峡に面する稚内港が、北極海航路に関する油防除、船舶修理、クルーチェンジ・補給、調査研究などの拠点なることに期待しており、一つでも実現できるよう頑張りたいと述べました。

続いて、紋別市産業部産業振興・企業誘致担当の佐藤参事は、北極海航路での氷海中の航行には、通常海域とは大きく異なる知識や経験が必要であることから、流水が押し寄せる紋別は、氷海航行技術に関する訓練フィールドとして好適であるため、国の船員養成の取組に注目していると述べました。

本研究会には、様々な分野から約 50 名の参加がありましたが、参加者にとって北極海航路の最新情報を共有できる良い機会になったと思います。道では、北極海航路の玄関口という地理的優位性を有する道内各港において、航路の活用に向けた取組が一層進むことを期待しており、今後も本研究会を定期的に開催していきたいと考えています。